



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2013.7

No.351

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



岩槻文化公園周辺の昆虫

藤原寛治（さいたま市）

定期的に探鳥会が開かれ、野鳥の種類も豊富な岩槻文化公園（以下、文化公園と言います）ですが、実は昆虫の種類も多い所です。私は、野鳥の少なくなるこの時期、文化公園で昆虫の世界にどっぷりつかって楽しんでいます。皆さんも昆虫ウォッチング、いかがでしょう。今月号は、ここで観察できる魅力的な昆虫をいくつか紹介します。

タマムシ（別名ヤマトタマムシ）

私の故郷の岩手県には、タマムシは分布していないようで、見たことがありませんでした。その為、タマムシは昔から私の憧れの昆虫で、いつか野外で実物を見たいと思っておりました。それが、いつも鳥を見に通っていた文化公園にいたとは、ある方に教えていただくまで、まさに灯台下暗しでした。とは言っても、鳥が少なくなる夏の時期は、文化公園に行かなかったということもあるのですが。

7月のよく晴れた日の昼頃、一番暑い時間帯に、旧曙プレーキテストコースの道路沿いで高い所を飛ぶ姿を見ることが多いです。ただ、数はあまり多くありませんので、出会えればラッキーです！ 身体をほぼ垂直にして、美しく輝く身体を陽光にキラキラさせながら飛ぶ姿は本当に綺麗です。運よく、近くにとまってくれれば、至福の時間を楽しめます。エノキの葉が好物で、よく葉っぱにとまって端の方から食べています。時には、複数（下の写真では2頭）でいる姿を見ることもあります。

文化公園が、いつまでも、美しいタマムシが生息できる環境であることを願います。

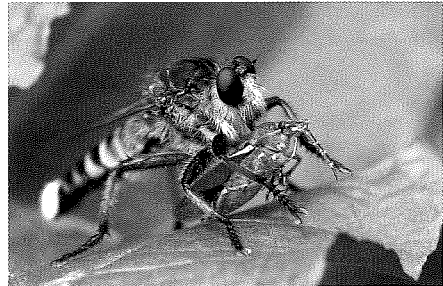


シオヤアブ

私が、昆虫の世界の深みにはまるきっかけ

となった虫ですが、その姿は、タマムシとは対極にあります。もし、自分が昆虫と等身大だったら、絶対出会いたくないと思う虫です。

アブの中でも大型で、盛り上がった胸部の筋肉、毛むくじゃらの顔、冷徹そうな眼、棘の密生した脚と、初めて見たときは、その姿に驚きとともに興奮したことを覚えております。ムシヒキアブ（漢字では「虫曳虻」と書き、食虫虻ともいう）科に属し、他のアブやハチ、カメムシ、コガネムシ、トンボなどを捕食します。但し、人間は刺しませんのでご安心を。



大きな体の割に獲物を追うときの素早さ、飛翔の巧みさは驚異的です。葉の上などでジッと獲物が来るのを待っていて、一気に襲い掛かり、目にもとまらぬスピードで仕留めます。そして、強い飛翔力で獲物を抱えたまま、安全な場所まで飛んで行きます（その姿から虫曳虻という名がついたのかもしれない）。シオヤアブは、旧曙プレーキテストコースの道路沿いで普通に見られます。

ここには、シオヤアブ以外にも大小合わせて何種類かのムシヒキアブの仲間が生息しておりますが、大型のものとしては、眼が緑色をして体の色が赤味を帯びたアオメアブ、全身オレンジと茶色と黒の派手な毛むくじゃらのオオイシアブがおります。個人的には、オオイシアブがいいかな。

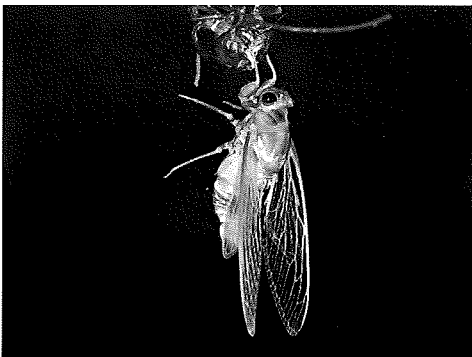
セミ（羽化）

文化公園で観察されるセミは、ニイニゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシの5種類です。文化公園はセミ銀座と呼称されることもあるほど、セミの羽化する個体数の多い公園です。

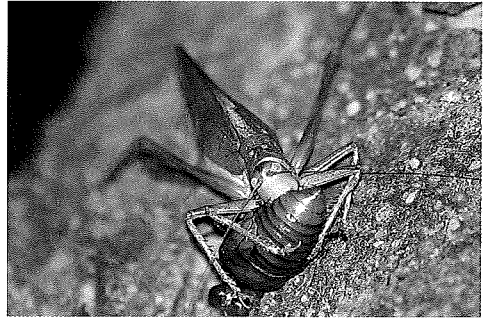


体育館の南側の芝生の広場の樹木で、多くのセミの羽化が見られます。その多くはアブラゼミですが、ニイニゼミもいて、運が良ければ、ミンミンゼミも見られます。7月20日頃からニイニゼミの羽化が始まり、その後、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシと続きます。ヒグラシは、羽化をまだ見たことがありませんが、ニイニゼミと同じ頃だと思えます。

羽化したてのセミはどれも妖精のように美しいですが、やはり翅の透明な種類、ミンミンゼミやツクツクボウシは格別です。伸びたばかりの翅のアメ細工のような透明感は何とも言えない美しさです。下の写真はミンミンゼミです。



でも、成虫になるまでは危険も多く、羽化に失敗するものや、時には、樹上に生息するヤブキリに捕食（右上写真）されたり、クモにつかまえられたりすることもあります。



私は、大体、20時頃から観察します。文化公園は、街灯がついていますが、懐中電灯は必携です。藪蚊も多いですが、遠くで鳴くアオバズクの声聞きながら観察するのも楽しいものです。閉門は21時30分です。

フタモンクモバチ

クモバチは、以前はベッコウバチと呼ばれた種類ですが、現在は、クモバチと呼ばれるようです。その名の通り、クモバチはクモを捕える狩蜂で、クモに麻酔をかけて卵を産み、幼虫の餌にします。本種は其中でも日本最大のクモバチで、オニグモを捕えます。クモにとっては、正に天敵、大きいオニグモもほとんど抵抗する暇もなく、麻酔針を刺されて動けなくなってしまいます。ある時、私の目の前でオニグモを本種が襲いました。2m程の高さの篠竹の上で格闘が行われ、オニグモが笹から転げ落ち、糸を引きながら地上に落下していきました、そのクモの脇にハチが降りていき、ピクリとも動かないクモを凄力でひっくり返し、その上に乗っかって、もう一度麻酔針を注射し、その後、どこかに引きずって行きました。こういう現場に出会うことはめったにないですが、他のクモバチがクモを引きずっている姿は、たまに見られます。



2013年冬 カモ科調査報告

日本野鳥の会埼玉 研究部

2012/2013年冬は、北極の寒気が中緯度まで降りて来る北極振動が続き、近年にない厳冬となりました。本調査が実施された2013年1月12日、13日は快晴でしたが、15日は南岸低気圧による大雪に見舞われました。

調査の結果、総数は2年連続して例年より約25%減、給餌中止のためかコハクチョウが減り、オンドリとトモエガモは昨年に続き減少しました。県内32ヵ所、延べ48名のご協力で深謝します。
(小荷田行男)

調査地	入間川	荒川					古利根川	大吉調整池	利根川	渡良瀬遊水地	狭山湖	調歩小畔川	新河岸川	新河岸川	百穴湖		
		豊水橋〜新富士見橋	荒川鉄橋〜戸田橋	(荒川第一調節地)	南畑排水機場 びん沼川	玉淀河原										玉淀ダム	壽橋〜堂面橋
地域	狭山市	戸田市	川口市	戸田市	さいたま市 富士見市	寄居町	寄居町	松伏町	越谷市	越谷市	本中市	北川辺町	所沢市	川越市	川越市	ふじみ野市	吉見町
コハクチョウ					9		24										65
オンドリ	4			17	2	47	13	6	55	840	249		11	83			
マガモ	7			59	40	23	8	4	29	237	4		2	118		37	
カルガモ		8		7	46	49	10	35	47	22	168	64	59	13		19	
コガモ	36	2									4					20	
トモエガモ																	
ヨシガモ				19						9					1	9	
オカヨシガモ										6					2		
ヒシガモ				9	23	44	15	12	48	27	4	22	359	45			
オナガガモ										109							
ハンビロガモ					33					2							
ホシハジロ		1		16							4					3	
キンクロハジロ				82	1		10									3	
ホオジロガモ				3													
ミコアイサ										101						2	
カワアイサ										13							
カモ科				1						2293							
種数	3	3	8	6	5	5	4	5	6	11	10	4	7	5	6	6	
合計	47	11	11	212	145	172	77	68	255	3805	444	89	553	187	112	1	
調査者数	1	1	1	1	1	2	2	1	1	2	1	2	2	2	2	2	1

八丁湖	大沼公園	林公園	県立農	白幡沼	公園池	見沼自然	柳瀬川	元荒川	宝蔵寺沼	ボート池	大宮公園	大宮第3公園	市芝川	さいたま市芝川	さいたま市芝川	加田屋川	水東緑	見沼代用水西縁	見沼代用水東縁	赤堀遊水地	深作遊水地	合計
池全部	大沼	芳沼	沼全部	池全部	池全部	富士見橋〜栄橋	城北大橋〜水管橋	池全部	池全部	池全部	池全部	池全部	松山橋〜八丁堤	八丁堤〜荒川	七里公園〜芝川合流点	七里公園〜山口橋	旭橋〜附島橋	池全部	池全部	池全部	池全部	池全部
吉見町	熊谷市	深谷市	さいたま市	さいたま市	志木市	富士見市	さいたま市	羽生市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	川口市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	浦川市	さいたま市	さいたま市
	166	7	212		18	43	60	2	2		24	159	7	3	6	1	63	47	283		7	9
	20	15	264		19	25	45	229	150	3	19	220	33	14	41	49	3	8	179		26	247
			4				2	1			2	2	7									4
	3		69								2	29									20	56
	1	14	31		13	97	76			12	28	33	73	13							137	1452
		21	1		77	5					3	21	13							18	26	1154
			165		3						7	11								25		37
	7		389		3					3	7									3	2	81
																					3	191
																						502
																						12
																						104
																						14
																						2291
	6	4	9	4	5	4	4	4	3	7	8	5	4	3	3	2	6	4	5	6	4	16
	204	87	1167	20	134	170	183	362	18	85	487	136	100	69	55	549	55	2	5	5	2	10120

2013 年春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉 研究部

日 時：2013 年 4 月 29 日 9:40～11:35
場 所：さいたま市 大久保農耕地
天 候：晴れ

東日本は南海上にある高気圧におおわれ
たため、晴れてすがすがしい天気になりま
した。連休にもかかわらず、18 名の方々の
協力が得られました。ありがとうございます。

観察された種数、個体数は 7 種 236 羽で、
昨年と比べると種数で 4 種、個体数
で 181 羽多くなりました。個体数が多くな
った 1 番の原因は、昨年と比べるとムナグ
ロが 166 羽多く観察されたためです。

今年も 4 月が天候不順だったためか、昨
年と同じように、やっと田植えが始まった
状態でした。しかし、水の入っている田の
所々にシギ・チドリ類がおりていて、オジ
ロトウネンが初めて、タマシギが 23 年ぶり

に観察されました。

今年もムナグロのほとんど（171 羽）が
堤防内の A s 区で観察されました。

春の調査結果のうち、最近の 10 年を表に
まとめました。それ以前の記録は『しらこ
ぼと』2012 年 6 月号 (No.338) をご覧くだ
さい。

※タシギ属不明種は、種数に入れませんでした。
(石井 智)



春のカウント結果 (大久保農耕地)

年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
調 査 日	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29
天 候	快晴	快晴	曇り	快晴	晴れ	快晴	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
1 タマシギ										2
2 コチドリ	4	4	2	6	3	7	4	3	9	11
3 ムナグロ	413	3	444	283	98	337	5	7	45	211
4 ケリ								1		
5 キョウジョシギ	1		3							
6 オジロトウネン										1
7 アオアシシギ			2	1						
8 タカブシギ	6					4		1		1
9 キアシシギ	2		1		3					
10 チュウシャクシギ	6	3	5	6	2	13		8		2
11 タシギ		13	3	8	8	2	1		1	8
12 チュウジシギ								1		
タシギ属不明種							1			
合 計	432	23	460	304	114	363	11	21	55	236



野鳥情報

さいたま市見沼区染谷 ◇4月5日、ウソ(亜種アカウソ) ♂1羽。4月9日、オオタカ1羽、上空通過。オオタカが飛んで行った先でツミの声。ヒガラ1羽、さえずる。エナガ1羽、黒っぽい毛虫をくわえて庭木にとまる。ヒナへの給餌かな? 4月16日、コジュケイ♂1羽、♀1羽、連れだって雑木林の林縁を歩く。アカハラ1羽。5月10日、2カ所でキビタキのさえずりを聞く(小林みどり)。

さいたま市見沼区加田屋 ◇4月5日、農耕地でキジの声、コジュケイの声、鳴きながら飛ぶタヒバリ1羽。川にハシビロガモ♂1羽、コガモ、カワウ1羽、コチドリ1羽。4月9日、農耕地の2カ所でキジの声。川にカルガモ14羽、コガモ♂♀合わせて36羽、ハシビロガモ♂1羽、♀1羽、アオサギ1羽、嘴が黒くなったダイサギ1羽、コサギ1羽。4月25日、川にダイサギ1羽、目先に婚姻色が出ている。コサギ2羽。5月10日、ヒバリ1羽、さえずりながら畑に着地し、そこにいたもう1羽を追い回す。川辺でオオヨシキリ1羽、さえずる。ハナモモの畑にツグミ1羽、まだいました(小林みどり)。

さいたま市緑区見沼自然公園 ◇4月5日、ヒドリガモ♂2羽、♀1羽、カルガモ、バン成鳥1羽、オオバン3羽、ヒガラ1羽、アトリ2羽、シメ5羽十。アオジ♂1羽、植込みの中でぐぜる。ウソ♀1羽、サクラの花をつつく。5月10日、カイツブリ2羽、クイナ1羽、バン成鳥1羽、オオバン1羽、カワセミ1羽。キビタキのさえずりが、何となく変。そのうち現れた♂1羽は、青虫をくわえていた。もしかして虫をくわえたまま、さえずっていたの?(小林みどり)。

越谷市中島 ◇4月8日、ダイサギ7羽、コサギ8羽、ゴイサギ5羽。ここでは毎年サギ類のコロニーが形成されている。3月は1羽も来ていないが、4月になるとダイサ

ギとコサギから集まり始める。しかもその時は皆と云っていいほど見事な婚姻色である。今日も足指が紫色に見えるコサギがいた。4月22日、チュウサギ2羽。目が真っ赤に見える。これほどまでに婚姻色になったチュウサギは滅多に見たことがない(山部直喜)。

さいたま市見沼区猿花キャンプ場 ◇4月9日、ヤマガラ1羽、さえずる。カケス3羽。4月15日、ヒヨドリ10羽十の群れ、上空通過。センダイムシクイ3~4羽、さえずる。シロハラさえずる。4月18日、シロハラ少なくとも5羽。センダイムシクイさえずる。キビタキ♂1羽、フライキャッチしては、さえずる。シメ1羽、「ツツ、ツツツ」と強く鳴きながら、もう1羽に体当たり。あの体型といい、力士のぶつかり合いを見ているようだった。4月25日、シロハラ1羽、アカハラ1羽。4月26日、ヒヨドリ40羽十の群れ、上空通過。コマドリさえずる。他にコルリと思われるさえずりも聞かれたが、「チツ、チツ、チツ」という前奏が聞こえないので判定できず。ヤブの中からクロジ♀1羽が飛び出す(小林みどり)。

さいたま市見沼区大和田緑地 ◇4月10日、センダイムシクイ1羽、さえずる。シロハラ5羽十、シメ2羽。5月8日、キビタキ1羽、さえずる。オオルリ1羽、さえずりながら枝移り(小林みどり)。

さいたま市北区芝川(県道2号線~鷲山橋)
◇4月10日、コガモ♂1羽、♀1羽、キンクロハジロ♀型1羽、渡ったと思っていたら、まだいた。カイツブリ、鷲山橋の上流側と下流側に1羽ずつ。アオサギ2羽、バン成鳥3羽、カワセミ1羽。5月8日、カワウ1羽、アオサギ1羽、バン成鳥1羽。オオヨシキリ1羽さえずる。今季初認(小林みどり)。

さいたま市見沼区大谷 ◇4月16日、「大谷ホテルの里」付近でセンダイムシクイ1羽、さえずる。5月10日、「思い出の里」内の湿地でオオヨシキリ1羽、アシにとまってさえずる(小林みどり)。

春日部市武里中野 ◇4月18日午前10時20分頃～12時30分頃及び午後4時35分頃～5時30分、カルガモ2羽ないし3羽単位の数組が田んぼのあちこちに見られ、また、飛び交い、営巣場所の見定めに忙しいようだ。住宅難のせいか、近年は狭い田の畔で営巣している。昭和46年頃の北越谷でアシ原のなかに大きなカルガモの巣を見たことがある。ムナグロ、午前は16羽、内夏羽3羽。午後は別の群れが飛来し、2群約30羽＋に増加。ウズラシギ、ムナグロの群れに混じって1羽飛来。当地、今季初認。キョウジョシギ♂1羽、ムナグロの群れと行動。当地、今季初認。他にダイサギ1羽、チュウサギ3羽、コサギ2羽、アオサギ1羽、コチドリ2羽、タシギ1羽、カワセミ♂1羽、ヒバリ、ツバメ(我が家のツバメ君はやっと連れ合いが見つかったらしく、家の前の電線に仲良く並んでグゼっていた)、ハクセキレイ、タヒバリ2羽＋、夏羽個体もいた、モズ♂1羽、ツグミ8羽＋など23種(石川敏男)。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇4月30日午前10時35分、子供の森で10羽ほどのムクドリの中に頭の白いムクドリが1羽(柳田富男)。



部分白化のムクドリ(柳田富男)

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇5月4日午前8時30分頃、キビタキがさかんにさえずっていたが、姿は見えず。カメラマンの話では、朝早い時間はクロツグミ♂もいたとのこと。チョウジソウ満開(藤原寛治)。

北本市北本自然観察公園 ◇5月5日午前9時30分～12時30分、ホオジロ・メジロ・ウグイスがさえずる。センダイムシクイのさえずりが聞こえたが、姿は確認できず。オ

オヨシキリ2羽＋、大きな声でさえずるが、上の方に出てこないの、なかなか姿は見えず。オオルリ♂1羽、いい声でさえずりながら枝移り。落ち着きがなく、じっくりとは見せてもらえなかった。他にエナガ、カルガモ、コガモなど(藤原寛治)。

さいたま市岩槻区岩槻城址公園 ◇5月5日午前10時頃、キビタキ♂1羽、とても心地良いさえずりは聞こえるが、姿はなかなか見られず諦めかけた時、ひょっこりと見通しの良い枝上に。短い時間でしたが、その素晴らしい雄姿を見せてくれました(菊川和男)。

鴻巣市鎌塚 ◇我が家の庭の枇杷の木にコゲラが穴を穿ち営巣、子育てをして5月5日1羽、翌6日に1羽元気に巣立っていきました(寺塚聖二)。

三郷市彦成3丁目 ◇5月11日、旅行中の自分に妻からのメール「朝9時頃、カッコウが鳴っていたよ」。当地での今年の初認である(山部直喜)。

春日部市旧倉松第一調節池付近 ◇5月12日午後5時30分頃、カワセミを確認(西内直子)。

鴻巣市上谷 ◇5月17日、田植え前の田んぼのなかにケリが1羽たたずんでいた(榎本秀和)。

坂戸市西坂戸 ◇5月18日午前8時45分頃、自宅室内に居て、ホトトギスの鳴声を聞く。今季初。毎年この時期に、我家近くの坂戸市と毛呂山町の境の森に飛来する。因みに、去年は5月29日でした(増尾隆)。

さいたま市岩槻区長宮 ◇5月21日午前9時30分頃、コチドリ20羽位、コアシサシ40羽位。今年もコチドリが子育てをし、コアシサシはペアリングが始まり、餌を啜って飛ぶ姿が度々見られた。その他、オオヨシキリ、セッカ、ツバメ、ヒバリ、ハクセキレイも観察できた(菊川和男)。

表紙の写真

タカ目タカ科ハイタカ属オオタカ

4月26日、本庄市坂東大橋下の利根川河川敷で、餌を探していました。

森田文三郎(本庄市)



行事案内



ササゴイ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月7日(日)

集合：午前8時15分、東武日光線板倉東洋大前駅。または午前8時35分、思い出橋駐車場。

交通：東武線新越谷7:21→春日部7:35→南栗橋7:52着、7:53発新栃木行きに乗り換え板倉東洋大前8:09着。またはJR宇都宮線大宮7:03→栗橋7:38着、東武線7:57発新栃木行きに乗り換え。

解散：午前11:30ころ、谷中湖北ブロック展望塔付近の藤棚。

担当：佐野、玉井、中里、田邊、植平、山田、佐藤、茂木、進士、野口(修)

見どころ：アシ原浄化ゾーンで、コヨシキリ、ヨシゴイ、ササゴイを中心に探鳥予定です。もしかするとオオセッカも……。谷中湖のアジサシ類と上空の猛禽にも期待です。暑さ対策はお忘れなく。



5月4日、栃木県民の森探鳥会

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月14日(日)

集合：午前8時20分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷8:00発、または寄居7:39発に乗車。

担当：新井(巖)、森本、倉崎、鶴飼、千島、栗原、飛田、中川、村上

見どころ：いよいよ夏本番、鳥が少ない時季ですが、毎年巣立って間もない幼鳥たちが可愛い姿を見せてくれます。

ご注意：今月から9月までは夏時間です(集合時刻に注意)。日陰の少ないコースです。飲料水や帽子など、暑さ対策をしっかりとしましょう。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月20日(土)

集合：午前9時20分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅北口から、立正大学行き 9:02 発バスで「滑川中学校」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。

費用：参加費以外に入園料400円(子供80円)、65歳以上200円(要：年齢証明できるもの)。

担当：中村(豊)、佐久間、内藤、藤掛、岡安、大坂、杉原、藤澤、宇野澤、松下、高橋(優)、鈴木

見どころ：蒸し暑い園内を歩けば、聞こえてくるニイニイゼミとガビチョウの声。特別

な鳥は出ませんが、カラ類やエナガ、キツツキを探します。ヤマユリが咲き出し、国蝶オオムラサキも飛び立つ頃です。

『しらこぼと』袋づめの会

日時：7月20日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：7月21日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：浅見、青木、倉林、小林(み)、須崎、赤堀、宇野澤、楠見、小菅、柴野、新部、増田、島山、若林、渡辺

見所：梅雨明け間近？ それとも直後？ いずれにしても、暑い最中の鳥見になりそう

です。過去29年間で中止は2回だけ。この時期でも毎年20種類くらいは観察されています。用水沿いの木陰を中心に、身近な鳥たちと一緒に暑さを満喫しましょう。

狭山市・人間川定例探鳥会

期日：7月28日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:42発、所沢8:39発に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。

担当：長谷部、藤掛、高草木、石光、中村(祐)、山口、星、久保田、山本(真)、水谷、間正、鈴木

見どころ：毎年のことですが、猛暑が予想されます。日陰から日陰へ移動しながら、数少ない鳥たちを探し出し、見慣れた鳥をさらに穴のあくほど観察しましょうか。

バードストライク

藤掛保司(川越市)

5月に、鳥友主催の北海道探鳥旅行に参加しました。その際、窓ガラスへのバードストライク防止対策を聞く機会がありました。皆様にもお伝えしたいと思います。

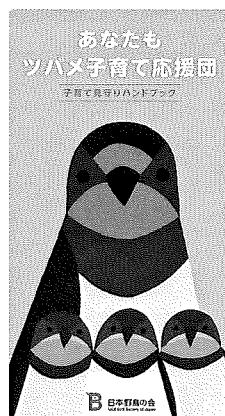
数年間の取り組みを話してくださったのは、根室市春国岱原生野鳥公園の手嶋洋子チーフレンジャーです。

- ①野鳥がよく衝突する場所に色々な野鳥のシールを貼りました。
- ②当初は窓ガラスの内側に貼りましたが、反射するので、外側に貼り直したら数倍の効果がありました。
- ③シールはホームセンターで屋外用耐水用紙を購入し、好みの野鳥をプリントしました。



ツバメ小冊子、もらえます！！

編集部



日本野鳥の会(本部)から左写真の小冊子がもらえます。「巣作りの手助け」「フン受けの作り方」「カラスよけ」などなど、知りたいことだらけ。

特に編集部は、「ツバメは法律で守られている」項で、卵やヒナがいる巣を落と

し、「鳥獣保護法違反」の疑いで立件された例があることに注目しました。

冊子希望の方は、日本野鳥の会の会員室 03-5436-2630 または kikaku@wbsj.org へお問い合わせください。

[日本野鳥の会ツバメをまもろう](#)を検索すると「ツバメの子育て状況調査」への参加方法を知ることができます。



行事報告

1月5日(土) 松伏町 まつぶし緑の丘公園

参加：30名 天気：晴後曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ミコアイサ オオタカ ノスリ ハヤブサ チョウゲンボウ キジ オオバン イカルチドリ イソシギ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) (番外：ドバト) 公園の池の南半分が氷結したためカモの数が極端に少ない。しかし、周辺の屋敷林では冬鳥が姿を現し楽しませてくれた。また、猛禽が多く姿を見せてくれた。シラコバトの姿が見られなくなったのも猛禽の圧力かもしれない。

(橋口長和)

2月3日(日) 狭山市 智光山公園

参加：33名 天気：快晴

カイツブリ コサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ コジュケイ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) (番外：ソウシチョウ、ドバト) アメリカヒドリを至近距離でゆっくり観ることができたのが今回のハイライト。一方、藪地には外来のソウシチョウが急速に増えており、可愛い鳥ながらも生態系への影響を考えると気になるところだ。「外来と うとまれつつも 強かに 生き延び殖える 鳥は哀しも」

(石光 章)

2月7日(木) 戸田市 彩湖

参加：23名 天気：曇時々晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツ

ブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ ヨシガモ ノスリ チョウゲンボウ オオバン イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト アリスイ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 池の周りではモズ、アオジ。グラウンドにツグミ、ムクドリ。湖に出るとカイツブリ3種。岸辺にイソシギ。管理橋を渡り西側へ。南へ行く道に少々遠いがルリビタキ、ホオジロが見えた。北へ向かう。湖のカモは少ない。左の林や草むらの小鳥たち、遠くの鉄塔上のノスリを見ながら機場の近くへ。栈橋の上のヨシガモを見て、北の土手に登る。オオジュリンの群れ、アリスイ、最後のダイサギを見て解散地へ。

(倉林宗太郎)

2月10日(日) 群馬県 小根山森林公園

参加：36名 天気：晴

トビ ノスリ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ カヤクグリ ルリビタキ ジョウビタキ ウグイス エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ クロジ アトリ カワラヒワ ベニマシコ カケス ハシブトガラス (27種) (番外：ソウシチョウ) カヤクグリを見ながら朝の挨拶をする。幸先が良い。途中ではルリビタキが何回も姿を現す。「かわいい」と歓声上がる。ついでに若鳥♂のお勉強も。森林公園では、樹液に集まるエナガを観察。帰り道でミヤマホオジロをばっちり見て探鳥会が終了。管理事務所からの温かい御味噌汁のプレゼントを戴きながら昼食を取る事が出来た。心身温まる探鳥会だった。

(入山 博)

2月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加：33名 天気：快晴

カワウ オオタカ ノスリ キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ クロジ カワラヒワ マヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムク

ドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種)
 (番外:ガビチョウ) 冬の小鳥がテーマなので、
 時間をかけて、いつもより丁寧に野鳥を探す。定
 例探鳥会を継続させるということは、なかなか大
 変なことではあるが、皆さんの笑顔に接して、大
 麻生の「灯」は消してはならないと自戒するの
 も毎回のこと。(榎本秀和)

2月10日(日) 所沢市 狭山湖
 参加:26名 天気:快晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツ
 ブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コ
 ガモ ホオジロガモ ミサゴ トビ オオタカ
 キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセ
 キレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ルリビタキ
 ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エ
 ナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジ
 ロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシ
 コ ウソ シメ スズメ ムクドリ ハシブトガ
 ラス (39種) (番外:ガビチョウ、ドバト) 当地の
 シンボルであるカンムリカイツブリの群れには早
 くも夏羽の個体も散見された。今冬はハジロカイ
 ツブリが目立って多い一方、カモ類は種・数とも
 悲しいほど少なかった。ルリビタキ、シロハラ、
 ツグミ等の冬鳥はそこそこ出現、今冬各地で記録
 されているウソも観察出来た。鳥合わせの最中、
 ベニマシコが現れ、当探鳥会80種目の出現記録と
 なった。「この冬は 里に見かける ウソ多し 山荒
 れ果てて 住みにくきかや」 (石光 章)

2月11日(月、休) さいたま市 大宮市民の森
 参加:95名 天気:晴

カワウ ゴイサギ コサギ マガモ カルガモ
 コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガ
 モ キンクロハジロ バン オオバン キジバト
 カワセミ アオゲラ コゲラ ハクセキレイ ヒ
 ヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ
 シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ
 アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズ
 メ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス
 (34種) (番外:ドバト) 新聞で紹介されて参加人
 数95名の大世帯! 芝川のカモ達もビックリ。天
 気も穏やかなので大和田緑地まで歩く。ほとん
 どの鳥達をじっくり見ることができた。参加者が
 多いのは嬉しい「大変」なのでちっとも苦になら

ない。皆様次回も是非お越しください。(青木正俊)

2月16日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園
 参加:31名 天気:晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガ
 モ コガモ オナガガモ ハシビロガモ キンク
 ロハジロ ハイタカ キジバト アオゲラ コゲ
 ラ キセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ
 ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス キ
 クイタダキ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュ
 ウカラ メジロ カシラダカ ミヤマホオジロ
 アオジ オオマシコ ウソ シメ スズメ カケ
 ス ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) (番
 外:ガビチョウ) 開始するとすぐにヒガラ、ヤマ
 ガラ、シジュウカラ、ルリビタキ、クイタダキ
 などが次々に姿を現す。さらに、倒伏した枯れ草
 の上にオオマシコの姿を見つけ、全員で観察。そ
 の後梅林に上がると、咲き始めたウメの木の下で
 餌を啄むミヤマホオジロの姿をゆっくり見ること
 ができた。疎林地帯ではビンズイの姿は見えな
 かったが、アオジやカシラダカ。その群れの中に一
 部白化と思われるアオジを見つけた。山田大沼で
 のカモ探しは、真っ向から吹き付けてくる寒風の
 ため早々に切り上げ、下見で確認していたアメリ
 カコガモは見つけられなかった。(中村豊己)

2月16日(土) 上尾市 丸山公園
 参加:17名 天気:快晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ
 キジバト ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ
 ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ
 ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウ
 グイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ カシ
 ラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ム
 クドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラ
 ス (30種) 寒い北風の中でメジロやヤマガラたち
 は元気に飛回っていた。修景池では珍しくカワセ
 ミのお出ましで盛り上がった。荒川の土手に上が
 ると風は益々強く、河川敷の歩行は困難と思われ
 たのでコースを変更。土手から下りて公園の外側
 の道を歩きはじめると間もなく、この探鳥会では
 初めて見るヒメアマツバメが飛び、アシ原ではア
 オジ、カシラダカ、ジョウビタキなどがよく見ら
 れた。その後アカハラが出たり、シメがでたりし
 て終了。コースを変えて正解。(大坂幸男)

連絡帳

●平成 24 年度探鳥会等は 114 回実施

	実施回数	参加人数
平成24年 4月	9	456
5月	9	347
6月	4	131
7月	6	239
8月	5	153
9月	4	149
10月	8	311
11月	14	476
12月	12	479
平成25年 1月	13	550
2月	17	736
3月	13	490
合計	114	4517

平成 24 年度内に普及部が主催した探鳥会に、研究部主催の自然観察会を加えた集計結果です。

計画は合計 119 回でしたが、雨天による中止が 5 回あり、実施は 114 回、合計参加人数 4,517 人でした。これは 1 ヶ月平均 9.5 回、1 回平均の参加人数 39.6 人ということになります。



平成 25 年 3 月 9 日 見沼たんぼゴミ拾い探鳥会

前年度は計画 119 回、雨天中止 13 回、実施 106 回(= 1 ヶ月平均 8.8 回)、合計参加人数 3,944 人(= 1 回平均 37.2 人)でしたから、実施回数、合計参加人数、1 回平均参加人数ともに増加しました。

詳細は 6 月 30 日に開催する総会で、事業報告として発表します。

●会員数は

6 月 3 日現在 1,876 人。

活動と予定

●5月の活動

5月11日(土)『しらこぼと』6月号校正
(小林みどり、浅見徹、佐久間博文、志村佐治、12日(日)に海老原美夫)。

5月19日(日)役員会(司会:相原修一、各部の報告・浦和博物館親子探鳥会講師派遣・次期事業計画案予算案・その他)。

5月20日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け『しらこぼと』6月号を郵便局から発送(倉林宗太郎)。

●7月の予定

7月6日(土) 編集部・普及部会。

7月13日(土) 8月号校正(午後4時から)。

7月20日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

7月21日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

生き物観察は何でもおもしろい。それでついつい、6月号7月号と続けて野鳥以外の特集を組んでしまいました。執筆者はいずれも BW の大ベテラン。読んで感じるのは、野鳥以外の観察が両氏に野鳥観察の幅や奥行きを醸し出していることです。

(山部)

しらこぼと 2013 年7月号(第 351 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社